

公共施設マネジメント講演会

- 1 期 日 平成26年8月18日
- 2 会 場 出水市役所本庁大会議室
- 3 演 題 公共施設マネジメント 「運営」から「経営」への発想転換
- 4 講 師 東洋大学大学院経済学研究科 客員教授 南 学 氏
(出水市公共施設適正配置計画検討委員会 委員長)

5 講演会の概要

(1) 自己紹介

ポイント

昭和52年に横浜市役所に入職。平成12年に退職し、大学教授となる。平成26年から現職。

(2) 公共施設を取り巻く課題とその対応策

ア 公共施設は時限爆弾

ポイント

時限爆弾には二つの意味あり。

一つ目は、老朽化した公共施設が原因となって、市民の生命と財産に危険を及ぼすという意味（中央自動車道笹子トンネルの例）。

二つ目は、市民の生命と財産に被害が出た場合、当該公共施設の責任者（課長等）の刑事責任が問われる、という意味。

イ 行政削減から真の行政改革へ～施設から機能への発想転換～

ポイント

公共施設マネジメント事業は、部局の枠を超え、さらには公と民間の枠を超え、これまでにない工夫をしていく必要がある。

一つの「施設」で一つの「サービス（機能）」を提供するのが当たり前、という考え方を改める。

「施設」がなければ「サービス（機能）」を提供できない、という考え方を改める。

ウ 対応策の具体例

ポイント

学校図書館・学校体育館を市民向けの図書館・体育館として併用する事例あり。施設の統廃合に伴い、かえって市民間の交流の輪が広がるという効果

もあり。

エ 施設を利用しない納税者の立場

ポイント

公共施設の利用率（稼働率）は総じて低い。つまり、公共施設を利用しない多くの納税者がいることとなる。利用しない納税者の目線で考えると、統廃合等による多少の不便や使用料の見直しは仕方ないのではないか。

(3) 公共施設マネジメント事業の進め方～運営から経営へ～

ポイント

市の固定資産台帳（公会計）を整備し、市の資産を把握し、活用して、行政の「運営」から「経営」に改める。

そのほか、スピード感のある政策決定をし、知恵と工夫で面積を削減する。

そして、2～3年の短い期間の適正配置計画を策定して、すぐにでも実践し、適切な評価（PDCA）をしながら、計画を練り直していく。

(4) 終わりに（次世代のためのチャレンジ）

ポイント

次世代に持続可能なかたちで出水市を引き継ぐために、様々な障害を乗り越えて、マネジメント事業に取り組まなければならない。

(5) 質疑応答

ア 公共施設マネジメント事業に取り組まなかったら…

ポイント

北海道夕張市は、7年前に財政破綻し、高負担低福祉のまちとなった。出水市もいつそうなるとも限らないので、今からマネジメント事業に取り組まなければならない。

イ 職員の事務負担の軽減策について

ポイント

公務員でなければできない仕事と民間でも可能な仕事とを明確に区分し、民間でも可能な仕事をなるべく民間にお願いすることで、職員の負担軽減になる。